

## 新手のクレジットカード詐欺

不快なサプライズを避けるため、友人・知人にこの e-mail を転送することをお勧めします。

カナダの大銀行の一つである Royal Bank of Canada はクレジットカード（VISA、Mastercard 等）を所有する顧客に対して、アメリカ大陸で広まっており、近いうちにヨーロッパにも波及するであろう新手の詐欺に警戒するよう促しています。

この詐欺はカナダで始まり、ものすごい勢いで拡大しており、手口はとても狡猾です。なぜなら、犯人は被害者のクレジットカード番号をすでに入手しているため、クレジットカード番号を尋ねてくることがないからです。このメールを読んで詐欺の手口がどのようなものであるか理解し、危険に対して準備・防御して下さい。手口は以下の通りです。

犯人は次のようにあなたに電話をかけてきます。

「こんにちは。私は〇〇という者で、VISA（もしくは他社）の詐欺対策部門からお電話してます。社員番号は 12460 です。

お電話差し上げたのは、我々の安全システムにおいて、あなたのカードを用いて不審な買い物がされたことが検知されたので、違法行為があったかどうか確認するためです。お話しているのは〇〇銀行（カード引き落としが行われる銀行）によって発行された VISA カードのことです。

最近ひょっとしてインターネット上で、〇〇に本社のある〇〇社の航空チケットを 497.99 ユーロで購入されましたか？」

「いいえ」と答えると偽社員は次のように続けます。

「やはりそうですか。簡単に説明すると、その会社は我々が警戒して目を付けている会社なのです。なぜなら、同社は一度に 297～497 ユーロの請求しかしておらず、一日に全世界で行われている取引を考えた時に、500 ユーロ以下に金額を抑えることで簡単には目につかなくなるからです。

いずれにせよ、この会社のこの金額のチケットを買ってないのであれば、あなたのおかげで、我々は詐欺が行われようとしていたことを確認できました。今月の請求額の中に上記金額が含まれていますが、我々は同時に同額の払い戻しを行いますので、口座から金額が引かれることはありません。明細は通常通りあなたの住所に送りますが、\_\_\_\_\_（あなたの住所）でよろしかったですね？」

あなたはもちろん「はい」と答えます。  
すると、犯人は次のように続けます。

「かしこまりました。では、詐欺対策のための内部手続きを開始します。もし、質問や照会がございましたら我々のフリーダイヤル〇〇〇にお電話頂き、詐欺対策部門を尋ねてください。

別の者が出ましたら本件オペレーションのコード（6桁の数字）をお伝え下されば、どのような質問にもお答え出来ます。（その後、先方がコードを伝えます）コードをお書きになられましたか？繰り返しましょうか？」

ここからが詐欺の重要な部分です。

偽社員はあなたにこう言います。

「最後に一点ございます。私はあなたがこのカードを本当に持っているか確認する必要があります。今、手元にお持ちですか？それでは裏面を御覧下さい。よく見ますと、二つの数字があります。一つはクレジットカード番号の最後の4桁、もう一つは3桁の数字（安全コード）です。この3桁の数字は、あなたがカードを手元に持っていることの証明になりますので、通常インターネット上での買い物の際に利用されます。その数字を読んで頂けますか？」

指示通り数字を読むと、偽社員はあなたに言います。

「かしこりました。正しいコードです。私はただ、カードが紛失・盗難にあっておらず、お手元にあることを確認する必要がありました。他に何かご質問はありますか？」

あなたが「いいえ」と答えた後に、次のように言います。

「分かりました。御協力に感謝します。なにかございましたら遠慮無く御連絡下さい。失礼します。」

こうして電話は切れます。

あなたは安心するでしょう。なぜなら、誰かがあなたを騙そうとしましたが、勤勉なVISAの詐欺対策サービスが間一髪あなたを助けたのですから。あなたは重要なことは何も言ってないし、クレジットカード番号を聞かれたわけでもありません。

しかし、この瞬間すでにあなたの金は盗まれています。

「すでに」というのはあなたが3桁の安全コードを読んだ瞬間に、間違いなくそれを使ってクレジットカードが使用されているからです。詐欺集団が望んでいるのは、まさに裏面にある3桁の安全コードなのです。他のデータ、つまり名義人、発行日、使用期限、クレジットカード番号、あなたの住所にいたるまで犯人は調査済みです。安全コードのみが不足していたのです。

もしあなたが上記に説明したような電話を受けた際は、相手にせず、会話の確認のために直接VISAに連絡する旨伝えて下さい。

クレジットカード会社が安全コードを尋ねてくることは絶対にありません。なぜなら会社はあなたがそれを知る前に知っているからです。

このメッセージを家族・知人に転送して下さい。

イタリア銀行

クレジットシステム情報サービス